

# 諏訪地方の 経済概況 速報

2022.06

2022年5月末調査／2022年6月25日発行

SUWA AREA  
ECONOMIC  
OVERVIEW



諏訪信用金庫  
SUWA SHINKIN BANK

## 諏訪地方の概況

5月は、諏訪地方にとって最大級の祭事・諏訪大社御柱祭の上社、下社里曳き祭が行われた。新型コロナウイルスの影響で車両運搬となった山出し祭に比べ、人力での曳行となった里曳き祭は多くの人出があった。参加者を限定し、観衆にも自粛を求めた今回の御柱祭は、山出しと里曳きを合わせた人出が17万4000人（諏訪地方観光連盟御柱祭観光情報センター発表の推計値）で、前回の約186万人に比べ大幅に少なく、経済効果も薄かった。ただ、国内では、新型コロナウイルスの感染拡大がやや落ち着いたことで、3年ぶりに行動制限がないゴールデンウィークとなり、一定の観光客の入り込みがあった。一方、諏訪地方の企業を取り巻く情勢は、長期化するコロナ禍、先行き不透明なウクライナ情勢、ゼロコロナ政策をとる中国の都市封鎖、日米の金利差による円安、原材料の高騰と不足、物価上昇、原油価格高騰、輸送コスト増加など、収益を圧迫する外部要因が多い。

（諏訪信用金庫の取引先約130社へのヒアリング調査による取りまとめ）

		実数	前年同期比	
有効求人倍率【4月】（諏訪公共職業安定所管内）		1.49倍	0.28ポイント	
手形交換高【5月】（諏訪手形交換所扱）	枚数	3,107枚	124枚	
	金額	4,768百万円	252百万円	
	うち不渡り発生状況	枚数	0枚	0枚
		金額	0千円	0千円
車庫証明取扱件数【5月】（諏訪地方合計）		800件	10.8%	
新設住宅着工戸数【2022年4月】（諏訪管内）		95戸	13.1%	

### ■新設住宅着工件数の推移（諏訪地方合計）



## 製造業

### 「部品不足、原材料高の影響が顕著に」

高速通信規格5G向けなどで需要が続く電子部品関連の受注は、堅調に推移している。一方、自動車関連は世界的な半導体不足に加え、ゼロコロナ政策をとる中国上海市のロックダウンによる供給網の混乱の影響で部品調達が滞り、国内工場の稼働を停止して減産を余儀なくされるなど、一服感がある。部品の調達難は自動車関連に限らず、多くの分野で生産に影響している。供給が遅れていた部品がようやく解消に向かうと思われた時、別の部品が調達遅れとなり生産が遅れた企業もあり、なかなか正常化しない状況となっている。

また、幅広い産業資材の国内価格が上昇し、企業収益への圧迫を強めている。日銀発表の4月の国内企業物価指数は、約41年ぶりに二桁の伸びとなり、資源高や円安を背景に上昇し、多くの企業で価格転嫁が課題となっている。

<b>金属製品</b> プレス、メッキ、熱処理など	半導体不足や中国の都市封鎖などで、自動車関連の受注は不安定。受注内示はあるが、実際は内示ほどの受注に至っていない企業がある。材料や電力、段ボール、梱包材などあらゆる資材が値上がりし、製造コストの負担も増加している。部品不足で組み立てができず、止まっている製品もある。半導体製造装置や医療関連製品の受注は、好調に推移している。
<b>一般機械</b> 工作機械、専用機械、省力化機械、検査機械など	省力化、省人化、衛生面強化などへの設備投資需要が多い。省力、検査機械は受注残が増加し好調だが、人手不足や材料値上げ、部品調達難で、生産が追いつかない企業もある。総体的に、発注から納期まで長期化し、部材の調達費高騰で収益が圧迫されている。専用機は、4月以降確約されていた大型受注が、ウクライナ情勢などの経済不安でストップしている企業がある。部材の供給不足による納期遅れは、今後も継続する見込み。工作機械は、国内向けがやや低調になっている。
<b>電気機械</b> 家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、半導体関連など	半導体検査装置関連は、半導体の需要動向から受注は大幅増加の見通しだが、部材調達難で完成品とならず、納品が遅れ、在庫が増加傾向となっている。プリント基板は、好調に推移していた5G関連のセラミック基板が、中国向けを中心に競争が激化し、一服感が出ている。従来型の基板関連も弱含んでいる。NC制御装置関連は、高水準の受注が続いている。
<b>輸送用機械</b> 自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など	自動車部品関連は、大手自動車メーカーが減速、減産の動きになり、中国・上海のロックダウンによる部品の供給遅れの影響が、顕著に表れてきている。受注量が計画水準に達していない企業や、他社の生産部品に供給不足が発生したため、自社の生産部品の在庫が過剰に積み上がり、その調整で足元の受注が足踏み状態の企業もある。今後も大手の生産計画に左右される見込み。船外機は、積み増し分への対応などで、高水準の生産が続く。建機、重機、農機の部品の受注も安定している。
<b>精密機械</b> 時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など	光ファイバー関連は旺盛な受注状況が続いている。半導体不足で在庫調整が行われていた工作機械関連の受注も回復傾向に向かっている。医療用検査レンズなど、光学レンズは動きが活発になってきたが、安価なレンズの中国からの仕入れが不安定になっている。多くの企業で原材料や原油の高騰、輸送費の上昇が収益を圧迫している。計量器は、設備機器関連の需要が多く、医療用機器向けが引き続き好調に推移している。
<b>製造業全般</b>	非鉄金属加工は、「在庫があれば売れる」状況が続いているが、在庫確保が難しくなっており、枯渇してきている。鉄や非鉄金属類全般の価格は7～9月にもう一段上昇する予想がある。寒天販売は製菓店や飲食店からの業務用寒天の発注が増加傾向。首都圏のデパートやスーパー向けも連休後から増加している。みそは、食品価格値上げ前の食材備蓄と見られる動きがあり、個人消費は生みそ商品、加工商品とも好調だった。外食産業が回復基調で、業務用商品の売上が増加している。

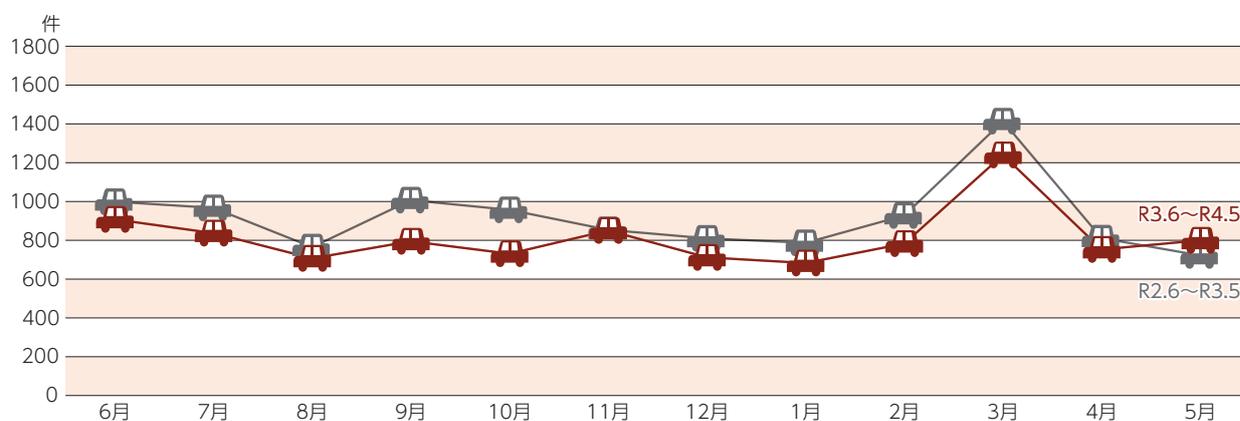
## 商業

### 「物価上昇を懸念」

総務省発表の4月の全国消費者物価指数は、前年同月比2.1%超で、7年1ヵ月ぶりに伸び率が2%を超えた。生産や暮らしの基礎となるガソリンや電気、ガスなどのエネルギーコストが上昇している。また、新型コロナウイルスの混乱がある程度落ち着き、世界各国で食料や燃料の需要が高まる中、ロシアのウクライナ侵攻で両国が主要産地の小麦や水産物の国際価格が上昇。円安も追い打ちをかけ、多くの食料品や日用品の値上げが止まらなくなっている。御柱祭は、前回より経済効果が少なかったものの、一定の効果はあり、行動規制の解除で来店客が増加した小売店などからは、物価の高騰による消費意欲の減退を懸念する声が出ている。

スーパー	食料品は全体的に値上がりし、売上ベースでは前年同月比増加し、客単価も上がっているが、来店客数や購買点数は減少した。オードブルや弁当などは御柱特需があったが、前回御柱祭時に比べるとわずかだった。
衣料品	人力による御柱祭里曳き祭の開催で、御柱関連商品に動きがあった。一般衣料品は気温が上がらず、夏物衣料の動きは鈍い。
家電	季節の変わり目で過ごしやすい気温が続き、空調関連機器の売行きは落ち着いている。調理家電は引き続き好調に推移している。生活家電では掃除機の入荷が遅れ気味だった。
自動車	諏訪地方の5月の車庫証明件数は800件で、前年同月比78件、10.8%増加した。
飲食店	来店客数が大幅に回復した店が多く、開店前に行列ができたり、過去10年間で最高の売上を計上した店があった。
靴店	原油価格の高騰で定番品を中心に、仕入れ価格が上昇している。
エネルギー販売店	ガスの販売量は前年同月比で、商業用は宿泊施設や飲食店の回復の影響で増加し、家庭用は巣ごもりの減少でマイナスとなった。ガソリンは販売量は減少しているが、価格が上昇基調で先行き不透明。
生花店	生花は母の日の需要があった。まだブライダルや葬儀の売上が見込めないが、ネットや店舗売上は回復傾向となっている。
書店	業界全体は、巣ごもり需要の恩恵を受けていたが、感染状況が落ち着くとともに、コロナ前の動きに戻りつつある。一昨年からヒット作に恵まれたコミックが、ここ数ヵ月落ち着いている。

## ■車庫証明件数の推移



## 観光・サービス業 「感染が落ち着き、回復傾向」

「緊急事態宣言」や「まん延防止等重点措置」が出されていた昨年同時期に比べ、売上が大幅に増えた宿泊施設が多い。5月後半から、日帰り会食も動き出し、6～7月は自粛していた各種総会や懇談会、企業研修、報奨旅行などの団体予約が入ってきている。諏訪大社御柱祭は通常だと、企業、団体、個人などが協力一致し地域全体で盛り上げるが、今回は氏子も観衆も人数を絞った祭りとなった。どんな状況でも協力一致できる諏訪人の心意気を示す一方で、経済効果は限定的だった。企業が取引先を招待する「お宿」も設置されず、数字に表れない損失もあった。その後、感染者数が減少し、政府は外国人観光客受け入れ再開に向けた実証事業を実施。良好な環境での観光客増加が期待される。

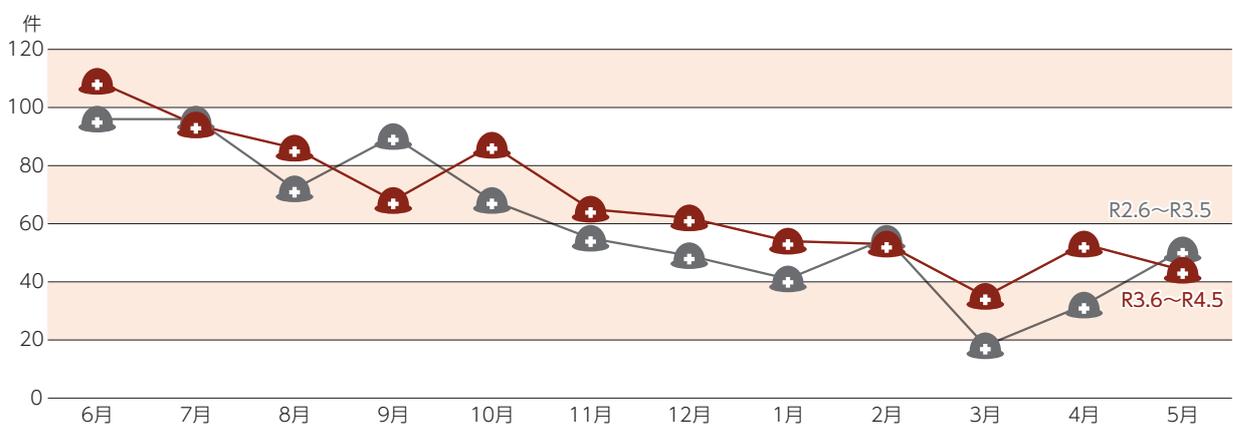
上諏訪温泉	御柱祭効果は限定的だったが、「県民割」延長と「すわ割」の集客施策が功を奏した。修学旅行（県内・近隣県）も久しぶりに1,000人を超過した。各施設とも、6月の予約状況は良好に推移している。総会などの企業需要が動き出し、活気が出てきている。
下諏訪温泉	御柱の影響もあるが、通常の観光客が増加した。「県民割」や「下諏訪割」を使った宿泊が多かった。
蓼科・白樺湖・車山・富士見等	GWから天候に恵まれ、集客は好調で、コロナ前の売上を上回った宿泊施設が多い。過去5年間で最高の売上を計上した施設もある。ゴルフ場の利用が多く、キャンプ場や貸別荘利用も増加した。
諏訪大社	上社・下社合わせた5月の参拝者数は、約11万5千人だった。前年同月比約7万人、159.3%増加した。

## 建設業 「材料急騰で収益圧迫」

5月の市町村からの受注工事は合計44件、545百万円となった。前年同月に比べ件数は7件減少したが、契約金額は24百万円、4.8%増加した。国、県関係の2022年4月～5月の累計公共工事（地元業者受注分）は、前年同期に比べ件数、契約金額とも減少した。民間工事は、諏訪地方の4月の新設住宅着工戸数が95戸で、前年同月に比べ11戸増加（13.1%）した。道路舗装用アスファルトの値上げが続き、国内流通価格の高止まりが懸念されている。総体的に材料が急騰し、収益を圧迫している。

公共工事	5月に地元業者が受注した国県関係の公共工事は、国関係1件、諏訪建設事務所2件、諏訪地域振興局林務課1件、の合計4件で、契約金額は650百万円だった。2022年4月～5月の累計は8件819百万円で、前年同期比で件数は3件、契約金額は534百万円減少（△39.4%）した。市町村からの5月の受注工事は、建築工事1件17百万円、土木工事および下水道工事36件377百万円、その他工事7件151百万円だった。
民間工事	諏訪地方の前年同月と比べた4月の新設住宅着工戸数は、利用関係別で「持家」は16戸減少の56戸、「貸家」は26戸増加の30戸、「分譲」は1戸増加の9戸、「給与」は同数の0戸だった。長野県内の4月の新設住宅着工戸数は954戸で、前年同月比15.1%増加した。持家は2ヵ月連続減少、貸家は6ヵ月ぶりの増加となった。

■公共工事の推移（市町村合計件数 調査・測量・設計など業務委託は除く）



諏訪地方の4月の有効求人倍率は、前年同月を0.28ポイント上回り、前月は0.09ポイント下回る1.49倍となった。12ヵ月連続で前年同月を上回った。長野県平均は、前月を0.05ポイント上回る1.50倍だった。県内が1.5倍以上になるのは、2019年11月以来2年5ヵ月ぶり。全国平均は前月比0.01ポイント上昇の1.23倍。完全失業率は、前月比0.1ポイント低下の2.5%で、コロナ禍の影響が始まる前の2020年3月以来の水準となった。

諏訪地方の新規求人数（全数）は1,688人で、前年同月比149人増加（9.7%）した。業種別前年同月比の新規求人数は、建設業8.5%、製造業17.6%、飲食店・宿泊業295.8%、医療・福祉業0.3%と増加し、運輸業・郵便業は△46.5%、卸売り・小売り業△0.7%と減少した。新規求職者数は826人で、前年同月比116人減少（△12.3%）した。

### ■有効求人倍率の推移



## 《企業のひとこと》

- 価格転嫁が課題だが、これまで価格交渉に応じてもらった取引先に対して、再度の価格交渉は難しい（金属製品製造業）。
- 材料は物によって納期700日、価格は10倍以上と、話にならないことが珍しくなくなった（一般機械製造業）。
- EV車が「善」のようになっているが、EV車への入れ替えが目的ではないはず。エンジン車でも脱炭素が技術的に可能なら、新しい価値観となる（輸送用機械製造業）。
- 人手不足で従業員の募集を行うが、全く集まらない。従来、加工のみ外注に出していたが、加工以外の工程も外注に依頼した（輸送用機械製造業）。
- 日々材料が高騰して収益を圧迫している。見積もりも出しにくく、値上げ分の転嫁が思うようにできない（建設業）。
- マスク生活が長くなり、顔が見えない時代になっていることから、名刺を写真入りに変えた（小売店）
- 高精度のものを安く売ることを美德としてきたツケが来ている気がする。良いものは、ある程度高く売べき。適正な価格設定が経済を支えると思う（工業薬品販売業）。
- 企業に対する賃上げ、特にベースアップを求める声が強まっているが、中小企業は利益が右肩上がりになっていない中では、非常に厳しい（観光業）。

## 「円キャリー取引が起こればさらに円安に」

### 円キャリー取引が年後半にも起こる？

「円キャリー」という言葉を最近よく聞くようになりました。円キャリーというのは、金利の安い円を借りて、金利の比較的高い通貨、例えば米ドルなどに投資する取引のことを言います。為替変動がなければ、金利分だけ儲かるという算段です。

もちろん、実際には為替変動リスクがありますから、以前は4%くらいの金利差がないとキャリー取引は行われないとされていました。

表にあるように日本の短期金利はわずかなマイナス、長期金利（10年国債利回り）は日銀が誘導する上限の0.25%程度、米国の短期金利は、3カ月物のTB（財務省証券）で1%強、長期金利は6月上旬時点で3%を少し超える程度の金利ですから、現状ではキャリー取引は起こりにくいと言えます。



	日本（短期）		（長期）		米国（短期）		（長期）%	
	コールレート 翌日物(平均)	新発10年国債 利回り(期末)	TB3ヶ月	10年国債 利回り				
2022年1月	-0.020	0.170	0.24	1.79				
2月	-0.018	0.180	0.37	1.83				
3月	-0.008	0.210	0.51	2.32				
4月	-0.012	0.215	0.83	2.89				
5月	-0.018	0.235	1.13	2.85				
	日銀	日本相互証券	米財務省	米財務省				

### 円キャリーが起こる金利差となるか

米国の中央銀行FRBは、3月と5月に、政策金利をそれぞれ0.25%と0.5%上昇させました。インフレ率が8%を超えてきたからです。そして、5月のインフレ率も8.6%と前月を上回ったので、今後も6月と7月にも政策金利を上げるとみられます。そうすると、短期金利は2%近辺となります。それでもインフレが収まらなければ、年内にさらに1%以上金利を上げる可能性は低くありません。そうなれば、短期金利は3%を超えます。

一方、日本は、インフレ率は4月で2.1%です。その原因は景気のもたつきです。そうであれば、政策金利を上げることはなかなか難しいと言えます。また、世界の中央銀行の中では珍しい政策ですが、10年国債利回りを下限マイナス0.25%、上限プラス0.25%に誘導する政策（イールドカーブ・コントロール）も行っており、このところは、世界的なインフレや金利上昇もあり、上限（0.25%）程度まで金利は上昇しています。

しかし、日銀は上限金利の引き上げには否定的で、金利が上昇しそうな場合には無制限に0.25%の利回りで10年国債を買い入れることを表明しています。つまり、当面は日本の金利は上昇しないということです。

米国の長期金利は市場実勢に任せているので、どこまで上昇するかはいまのところ不明ですが、短期金利が3%程度まで上昇すれば、長期金利は4ないし5%程度まで上昇する可能性は高いと考えます。

そうなると、円キャリー取引が活発化するものと考えられます。時期的には、米国のインフレ率にもよりますが、年末にかけてでしょうか。

### 円キャリーが進めばさらに円安になる

円キャリー取引が起これば、先にも説明したように、円を借りてドルで運用するわけですから、その際に円売り・ドル買いが起こるわけです。そうなると円が売られるわけですから余計に円安が進みます。

この場合、円キャリーを行う人は、日米金利差で儲かるとともに、円が安くなるわけですから、返済時のドル額が少なく済みますので、為替でも儲かり、金利と為替の二重で儲かるという構図になります。そうなると余計にキャリー取引が活発に行われ、さらに円安が進みやすくなるということになります。

### インフレはどこで収まるか

現状の8%台のインフレ率は、FRBにとっても耐えられる水準ではありません。高いインフレ率は、比較的所得の低い層に重くのしかかるからです。秋に中間選挙を控えたバイデン政権にももちろん大きな重荷となっています。

そうした状況下、ウクライナ情勢もあり、原油価格や食料価格は高止まりを続けています。インフレ率は、「前年比」で計算されるため、このままのエネルギーや食糧価格が続けば、1年後には上層率はゼロになりますが、逆に言えば、当面は高いインフレ率が続く可能性があるということです。

もちろん、FRBは政策金利の引き上げや、市中からの資金の引き上げを積極的に行うことにより、景気を冷まし、インフレ率を下げる政策を採りますので、長期間今の状態が続くことは考えにくいですが、しばらくは、FRBが目標とする2%からはかなり乖離した状況となることが考えられます。

年後半までインフレ率が高どまれば、円キャリーが起こり、さらに円安が加速というシナリオもあるのではないのでしょうか。いずれにしても、米国の金利、ひいではインフレ率次第ということなのです。



SUWA SHINKIN BANK

## 諏訪信用金庫

長野県岡谷市郷田二丁目1番8号

TEL 0266-23-4567 FAX 0266-24-4055

<http://www.suwashinkin.co.jp/>